

知っていますか？ ・ 子どもの熱性けいれん

★熱にともなうけいれん（ひきつけ）で、多くの場合、熱が急に高くなるときにおこります。

★目が上や横に固定してうごかず、顔色がわるくなり、全身が硬くつっぱったり、ピクッピクッ、ガクガクしたりします。呼びかけても反応がありません。

ほとんどの場合、5分以内で自然におさまります。

★5%くらいの子どもにおこりますが、その約半数は1回だけで3回以上おこるのは約1/10といわれています。

★熱性けいれんは、おもに6ヶ月から6歳におこり、1歳～2歳にピークがあります。また、家族性があるといわれています。

★多くは「単純型熱性けいれん」といわれる予後（なおり）のよいもので、知的障害を残したり、「てんかん」に移行したりすることはほとんどありません。

★しかし、下のような場合には10%くらいが「てんかん」に移行する可能性があるので注意が必要です。

◎「複合型熱性けいれん」の場合

- ①けいれんが15分以上つづく
- ②24時間以内に再びけいれんがおこる
- ③けいれんに左右差がある

◎きょうだいや両親のだれかが「てんかん」である場合

★まれに、髄膜炎や脳炎などによるけいれんが疑われることがあります。その場合は、くわしい検査や入院が必要になります。

⇒ うらへつづく

もしも けいれん をおこしたら あわてずに

- ①初めてけいれんをするわが子をみたら、だれでも身の縮む思いがします。でも、熱性けいれんそのもので死亡することはありません。落ち着いて、だ液や吐いたものでちっ息しないように、お子さんの顔を横にむけましょう。
- ②舌をかむ心配はほとんどないので、指やスプーンなどを口に入れないようにしましょう。
- ③たたいたり、ゆすったりするなど刺激を与えず、できるだけ安静にしましょう。たくさん着こんでいたら脱がせて涼しくしてあげましょう。
- ④初めてのけいれんのときは、止まっても小児科医の診察を受けましょう。また、2回目以降のけいれんのときでもいつもとようすが違うときは診察を受けたほうがよいでしょう。
- ⑤けいれんが5分以上つづいて止まりそうにないときは救急車を呼びましょう。
- ⑥熱性けいれんを何度もくり返すお子さんには、発熱（37.5℃以上）に気付いたときにジアゼパム（薬品名）の坐薬・シロップを使うとけいれんを予防できるようです。
- ⑦また、何度も熱性けいれんをくり返す場合には、脳波検査などをうけて、ほかに原因となるものがないことを調べておくとう安心でしょう。かかりつけ小児科医に相談してみてください。